

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	はびねす長岡2(単位1:はびねす古正寺)		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日	~	2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 81	(回答者数)	53
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日	~	2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	普段の活動内容や学級日のイベント活動に非常に好評のお声を頂いております。 児童への聞き取りや保護者様へのアンケートで日々、ご希望に沿った内容を提供出来ています。 今後もより、学校との差別化を図りはびねすでしか出来ない体験を準備していきます	ご利用者様が興味を持てるようなチラシ作成や活動内容を日々考案しています。 楽しめることを前提に安心安全も担保出来るように職員間で計画を立てて実行しています。 保護者様、ご利用者様の意見が頂けるように普段からのコミュニケーションも大事にしております。	内容のマンネリ化を防ぐため物品の更新や今まで難しいと思われていて出来なかった事に事業所全体で挑戦していきます。 更に、今までやってきたこともマニュアルを使用し創意工夫を重ねて安心安全に強化していきます。
2	利用者様と職員との親しみやすさ・話しやすさ・相談のしやすさが強みとなっています。保護者様からも「はびねすなら安心して預けられる」、「別の事業所についてものはびねすの利用は残したい！」などのお声も頂いております。	職員一人一人の挨拶や態度、明元素を大切にしています。 定期的に研修を行い、保護者対応や児童対応なども日々練習しています。	
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々のカリキュラムが固定化しやすく、長期利用している児童にとって新鮮味や新しい挑戦意欲を引き出す工夫が不足しがちである。	発達障害の特性理解や行動援護に関する深い知識を持つスタッフが不足しており、パニック等の行動障害への対応に差が生じている。	同じ種目でも難易度を段階的に設定した「課題カード」等を導入し、どの子も「できた」を実感できる個別最適な運動メニューの充実を図る。
2	集団での運動プログラムが中心となるため、身体能力や理解度の差が大きい場合に、個々の特性に合わせたきめ細やかな個別支援が十分に追いつかないことがある。	限られたフロア面積の中で、動的な活動(走る・跳ぶ)と静的な活動(学習・休息)の切り替えを行う際、環境設定による構造化が物理的に難しい場面がある。	物理的な環境整備(緩衝材の設置等)と指導体制の再点検を行う
3			